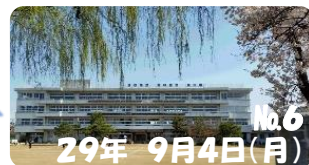




さわやか



いい子ども、よい学級の共通点

「いい子ども達、よい学校ですね。子ども達が私の話をよく聞いてくれましたし、質問もたくさんしてくれました。それに学校がきれいです。」(放射線授業後の舟生先生の感想)

教育関係者から一般の方まで、よい子ども達・学校だと共通してほめてくださることは、子ども達のまとまり感があること、和やかで活気があるということです。先日の研修で、遠藤指導主事が話した「ルール」と「承認感」と共通するものです。

では、どんな指導が「いい子ども達、よい学級・学校」に高めているのでしょうか？そのヒントが、遠藤指導主事からいただいた資料に載っていました。



「聞く力」を身に付けた子ども達

満足型学級の先生方の実践～教育センター研究成果から～

- ①よいところを具体的に伝え、全体で認め合えるようにしている。(O)
- ②適宜、ペアやグループ活動を取り入れ、一人一人の考えや意見を発表する場を保障している。(S)
- ③話をするとき、児童の聞く姿勢が整うまで待つ。(Y)
- ④教師や児童が言ったことを児童にもう一度説明させている。(I)
- ⑤帰りの会の時間に、友達のよいところをほめる時間を設けている。(E)
- ⑥学習のルールを徹底させている。(K) 等々・・・

ん？まてよ！これらのことは、先生方がやっていることではないか！(()内は実践している先生のイニシャル)

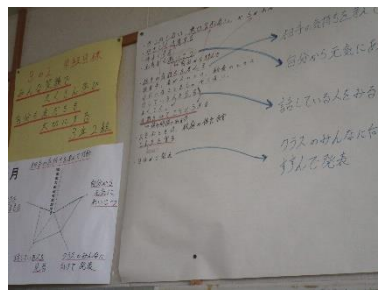
そうです。これらのことをやっているから、たくさんの人にほめられる子ども・学校になっているのです。下に、証拠となる写真を掲載しました。



席を離れる時は椅子を入れる



よさを可視化する



子どもが主体となった目標づくり



学び方を示す

「徹底する。理論付けする。活用することが、ポイント

①「徹底する」とは、一人残らず全ての子どもが、ということ、共通実践は、全ての学年・教師が確実に実践することです。「なかたたくタイムはやっていません。」は、よろしくありません。

②「理論づける」とは、指導していることに意味づけすることです。例えば、「よい姿勢。これから～」と子どもに言っていますが、なぜ、これをやらせているのでしょうか。学習の構えをつくるためですね。子どもがよい姿勢になっていないのに、「はい。始めます。」では、やっている意味がありません。

③「活用する」とは、自校化した「授業スタンダード」を実践することです。

目的を持って実践すること、それを全ての学年で実践することを徹底しましょう。一人残らずいい子ども、よい学級になるはずですよ。



※ 授業研究、ご苦労様です。学習指導要領解説を熟読し、授業のねらいを吟味しましょう。